

令和4年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【2年目】

P T A名	静岡県立沼津特別支援学校 伊豆田方分校 P T A	
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input type="checkbox"/> 小学部 <input type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
	全校児童・生徒数	37人

1. 使用状況

寄贈物品名	耕運機
使用学年及び人数	園芸班 10人
使用頻度	週1回程度
使用状況	畑を耕す際に使用している。春夏野菜の栽培を始める時期、秋冬野菜を栽培する時期、花壇の植え替えをする際に使用する。
物品の使用による 変化や効果 ※ 1年目との違いを 含めご記入ください。	野菜の栽培を始める時には、広い範囲の土を耕すことになるので、耕運機を使用することで、時間が短縮され、他の活動に時間を充てることができた。播種や定植の方法を丁寧に確認することで、その後の野菜の生育も良くなった。 また、秋冬野菜の栽培を始める9月は、まだ残暑が厳しいため、耕運機を使って作業時間を短くすることで、生徒たちの体調面での配慮をすることができた。 耕運機を使うのが得意な生徒が、他の生徒へ教える場面もあり、生徒同士のつながりをさらに作ることができた。
今後の活用の 見通しや課題	土を耕す効率が上がることで、他の活動に充てる時間を増やすことができ、活動の幅を広げることができた。これまでは野菜についての知識や、栽培方法について調べる時間を増やすことができたので、今後は卒業後に活かすことができるコミュニケーションの学習等の時間にもしていきたい。 作業班は1年で変わるなので、新しい作業班になった時にも耕運機の使い方を引き継げるようにするのが、今後の課題である。
その他 希望や所感など	耕運機を使用し、たくさんの野菜の栽培をすることができた。野菜ができることの達成感、野菜を販売し、誰かの役に立っていると感じる事など、生徒たちの自己肯定感の向上に繋げていきたい。

2. 活用の様子

【園芸班で耕運機を使っている様子】

